

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 多子家庭への支援を拡充します

かねてより子たくさん家庭への支援として、国も県もそれぞれ独自に保育料の軽減を実施していますが、人口減少への懸念が更に深刻化する中、県は、平成 27 年 4 月から子たくさん家庭への支援を拡充したいとして、市・町（基礎自治体）に協力を呼び掛けてきました。そして、昨年 12 月、県は、これまで「3 歳未満児」を対象に実施してきた第 3 子以降の保育料等の軽減措置について、対象年齢等の大幅な拡大を図りたいと表明しました。

仮に、本市において、対象年齢を「3 歳未満児」から「0 歳から 5 歳児」に広げ、さらに対象施設を「保育所」に限っていたものに「幼稚園」を加え、それら拡充分の 2 分の 1 を県が負担し保育料の軽減を行うとすると、本市の対象家庭は約 200 世帯、市全体の負担の増加額は約 1,600 万円となります。

県が自ら福祉の拡充策を提案すること自体これまで決して多くはなかったことに加え、今回の支援拡充で、お役に立つ多子家庭も決して少なくはない実情を踏まえ、本市としても、県に同調して制度の充実を図る予定にしています。

他の諸制度も、少しずつ、改善して行きたいものです。

■ 急患診療所をご利用ください

市民病院の東隣に、「山陽小野田市急患診療所（一次診療所）」のあることをご存知でしょ

うか。内科と小児科の 2 科だけですが、内科は平日の夜間午後 7 時から午後 10 時 30 分まで、小児科は日・祝日等の午前 9 時から午後 5 時まで、風邪などの比較的軽症な患者の診療をしています。

急患診療所開設の目的は、夜間や休日等に、緊急な治療や入院の必要な重症患者のため、救急車と病院（医師）をできるだけ空けておくためです。

しかし、市民向けの PR が不十分なせいもあり、平成 22 年 1 月の開設時から、内科に限って言えば、利用者は 1 日平均わずか 3 人に満たない状態が続き、その一方で、運営経費はかなりの額に上っています。

そうした事情から、急患診療所の内科の存続については消極的な意見が強く、本年度末（平成 27 年 3 月）での閉鎖も検討されましたが、再度、市民向けの PR に力を入れ、しばらく様子を見たうえで結論を出すことにしました。

比較的軽症な方は、まずは急患診療所をご利用いただき、適切な受診へのご協力をお願いします。

